



Le Grand Eléphant. Les Machines de l'île © Jean-Dominique Billaud/LVAN

レ・マシーン・ド・リル

LES MACHINES DE L'ÎLE

巨大な象から海中世界まで…10年来ナント観光の中心的存在であり続ける
大人も子どもも楽しめるアーティスティックな遊園地

港湾工業都市の詩情を表現

レ・マシーン・ド・リル Les Machines de l'île は観光の目玉となるアーティスティックで独創的な遊園地です。この遊園地を構成するのは巨大な機械仕掛けの生きものたち。これが工業都市として発展してきた歴史をもつナントの都市景観に実にしっくり馴染んでいます。フランソワ・ドゥラロジエールとピエール・オレフィスが考案したこれらの生きものは、作家ジュール・ヴェルヌの描いた空想世界やレオナルド・ダ・ヴィンチが設計した機械類、さらにナントの産業史からアイデアを得て誕生しました。このファンタスティックな遊園地はロワール川に浮かぶナント島の西側に位置する旧造船所跡にあり、かつての鋳物工場の3つのネフ（屋根付きの細長い通路）とその周囲に広がっています。園内の「ラ・ギャルリー La Galerie」は「アトリエ l'Atelier」で製作された作品を展示するスペースで、製作数の増加に伴いどんどん内容が充実しています。一方「アトリエ」は木と鉄が織りなす驚きの空間で、装置の製作プロセスを見学できます。

散歩に連れて行ってくれる巨大な象

2007年より機械仕掛けの巨大な象がロワール河岸を闊歩しています。これを見逃すわけにはいきません！ いなき、長い鼻から水を噴き出すその姿はまさに本物そっくり！ もう一つの驚きは高さ12m、重さ48.4トンというそのサイズ。さらにもっと驚くことに、なんとこの象は散歩に出るとき、腹と背に計50人を乗せてくれます。象に乗り込み、30分のユニークな町歩きへいざ出発！ 機械仕掛けの象は見るだけでも楽しく、その金属の骨格、脚、歯車装置が作動する様子はまさにスペクタクルそのもの。時間を忘れるこのアトラクションは1月～2月初旬を除く通年で楽しめます。巨象がのし歩くのは、ル・カルーゼル (le Carrousel) からレ・ネフ (Les Nefs) まで。ハイブリッドエンジンを搭載し、2018年には環境配慮の品質保証ラベル「エコ・レスポンスブル」を取得した最初の機械仕掛けの象になりました！

海中世界を表現したメリーゴーランド

2012年7月、レ・マシーン・ド・リルに新たな物語が加わりました。海の世界を表現した巨大なメリーゴーランド「ル・カル

ーゼル・デ・モンド・マラン le Carrousel des Mondes Marins」(高さ25m、直径22m)が登場したのです。海の生きものたちが暮らすこの大きなメリーゴーランドはそれぞれ海底、深海、海面を表現した3つのフロアにある36種類の可動エレメントから構成されています。海の生きものと船および索具類（逆噴射イカ、空飛ぶ魚、嵐に見舞われた船...）が動く様子を眺めて楽しむもよし、生きものや船に乗り込んで操縦するもよし。大人も子どもも楽しめること請け合いです。「360°回転する巨大劇場」とでも形容できるこのメリーゴーランドは、海と異世界への夢をテーマにし、現代のローヌ河岸で19世紀のメリーゴーランドの伝統を蘇らせています。メリーゴーランドは当時、スリルを味わうアトラクションではなく、旅に連れて行ってくれる乗り物としてみなされていました。

新プロジェクト「鷺の木」(完成予定は2022年)

2022年、ロワール川のほとり、ル・カルーゼルがある岸の対岸に天空の都市が誕生します。これを形作るのは高さ35m、直径50mの巨木「鷺(サギ)の木 l'Arbre aux Herons」。鷺の木はブルターニュ地溝の岩の急斜面のふもとに広がる多様な生きものたちの楽園「ラ・カリエール・シャントネ la Carrière Chantenay」に生えることとなります。木のてっぺんには大きな2羽の鷺が止まり、この鷺たちが人々を翼に載せ、シャクトリムシやアリなど機械仕掛けの生きものたちが暮らす驚異の空中庭園の枝木のあいだをくぐりながら周回して飛びます。独自の生態系を備えた鷺の木の枝は22本。直線距離にすると1kmを越え、そのうち450mは遊歩道です。現在、枝のプロトタイプ(20m)がすでにレ・ネフのファサードに設置されています。

ラ・ギャルリー (LA GALERIE)

実験施設として、さらにはパフォーミングショーの舞台としてデザインされたラ・ギャルリーでは現在、「鷺の木」を構成する機械装置が展示されています。装置は各種試験を経たあと「鷺の木」に取り付けられることとなります。ここに収められた機械仕掛けの生きものたちのコレクションに2019年、新たにナマケモノ一匹が加わります。糸を這いのぼって行くクモのそばで巨大アリが歩き回り、翼幅8mの鷺が飛翔する...そんな驚きのこの空間では本物の植物が機械仕掛けの植物と共存しています。メカニシヤンのサポートで装置を操縦することも可能。



Philippe Ramette, Éloge du pas de côté, Nantes - Le Voyage à Nantes 2018 © Martin Argyrogro / LVAN - ADAGP, Paris 2018



Nuit du Van 2018 © CLACK - David Gallard / LVAN

ル・ヴォワイヤージュ・ア・ナント

LE VOYAGE A NANTES

毎夏パワーアップする常設の散策コース

2012年に始まったル・ヴォワイヤージュ・ア・ナント Voyage à Nantes（「ナントへの旅」の意、略してVAN）は約40のスポット（見どころ）で構成される常設の散策コースで、夏に開催される同名の祭典（2019年7月6日～9月1日）を通じて毎年内容が変更され、さらなる充実化が図られています。祭典の会期中もそれ以外の時期も、路上に引かれた緑色のラインがコースの目印。VANではアート、料理、歴史遺産、環境、インダストリー（工場）などに関連する文化を幅広く紹介しています。

遊び心、ユニークな感性、詩情

ヴォワイヤージュ・ア・ナントの特徴はまず常設の散策コースであることで、12kmのコースにアート作品などをちりばめた「分散型モニュメント」を形成しています。現代アートの巨匠の作品から秀逸な歴史遺産まで、ナント観光の「外せない」名所から人知れない穴場まで、歴史の趣を宿す小路から現代建築まで、町を見晴らす展望スポットから個性的な遊び場まで、通りの往来を眺め、周囲のざわめきに耳を澄ましなが、緑のラインに導かれるまま気ままなそぞろ歩きを楽しみましょう。

夏の祭典（2019年7月6日～9月1日）

毎年夏には50ほどの文化イベントを同時に開催する祭典「ル・ヴォワイヤージュ・ア・ナント」が町を賑やかに演出します。その強みはなんといってもイベントの多彩さと、そのほとんどが無料で楽しめること。2か月の会期中、アートが町のいたるところに出現し、見る人の感性と呼应し合います。芸術家、建築家、デザイナー、園芸家などが12kmの散策コースに新たな活力を注ぎます。

- 会期中、文化施設（美術館、公立劇場など）が休館日なしで連日そのドアを「全開」し、広範な人々を迎えます。グラスリン劇場には65,000人以上が足を運び、ダニエル・フィルムンのアート作品「インサイド Inside」（発光性クリスタルの人体と空中に漂うパイプ音）を鑑賞しました（VAN 2018）。
- 著名な芸術家たちが公共スペースに作品を展示し、出会いの場を形作っています。ブッフェ広場には毎年楽しい作品が目見え。たとえばバティスト・ドゥボンブルはピストロやカフェの椅子1,200脚を空中にずらりと並べ、カラフルで大きなジェットコースターをつくり出しました（「ステラー Stellar」、VAN 2015）。
- いたずらっぽい看板など、作品は思わぬ場所に出現し、街路の連続性を揺るがしています。

2019年のプログラムは同年6月に発表されます。ですがすでに、緑のラインが歴史地区とナント島の外にも延び、ほかの地区もアートで飾られるとの噂も。さらに、クレール・タブレが女性アーティストとして初めてハブ・ギャルリーHAB Galerieに集

り込むとか、もう一つ芸術家の部屋が水上につくられるとか、そんな情報も入っています…。

2018年のVANを数字にまとめると…：スポットの数54、参加アーティストまたはアーティストグループの数19、関与した文化アクターの数21、初めて設置されたスポットの数7、「ル・ヴォワイヤージュ・ア・ナント」公式パートナー店舗の数204

夏の祭典の目玉

・**ラ・カンティヌ（食堂）**：ロワール川沿いに会期中のみ設けられる集いの場。バーでもありレストランでもある2,000m²のこの施設のデザインはクリエイター集団「アペル・モア・パパ Appelle moi papa」が手がけています。

・**オープニング祭「VANの夜 La Nuit du VAN」**：その年の祭典の開幕を祝う特別な一夜。音楽や料理のイベント、パフォーマンス、入場無料のナイトミュージアムの開催など多彩な催し物が予定されています。

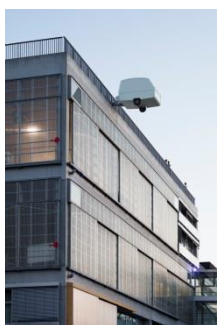
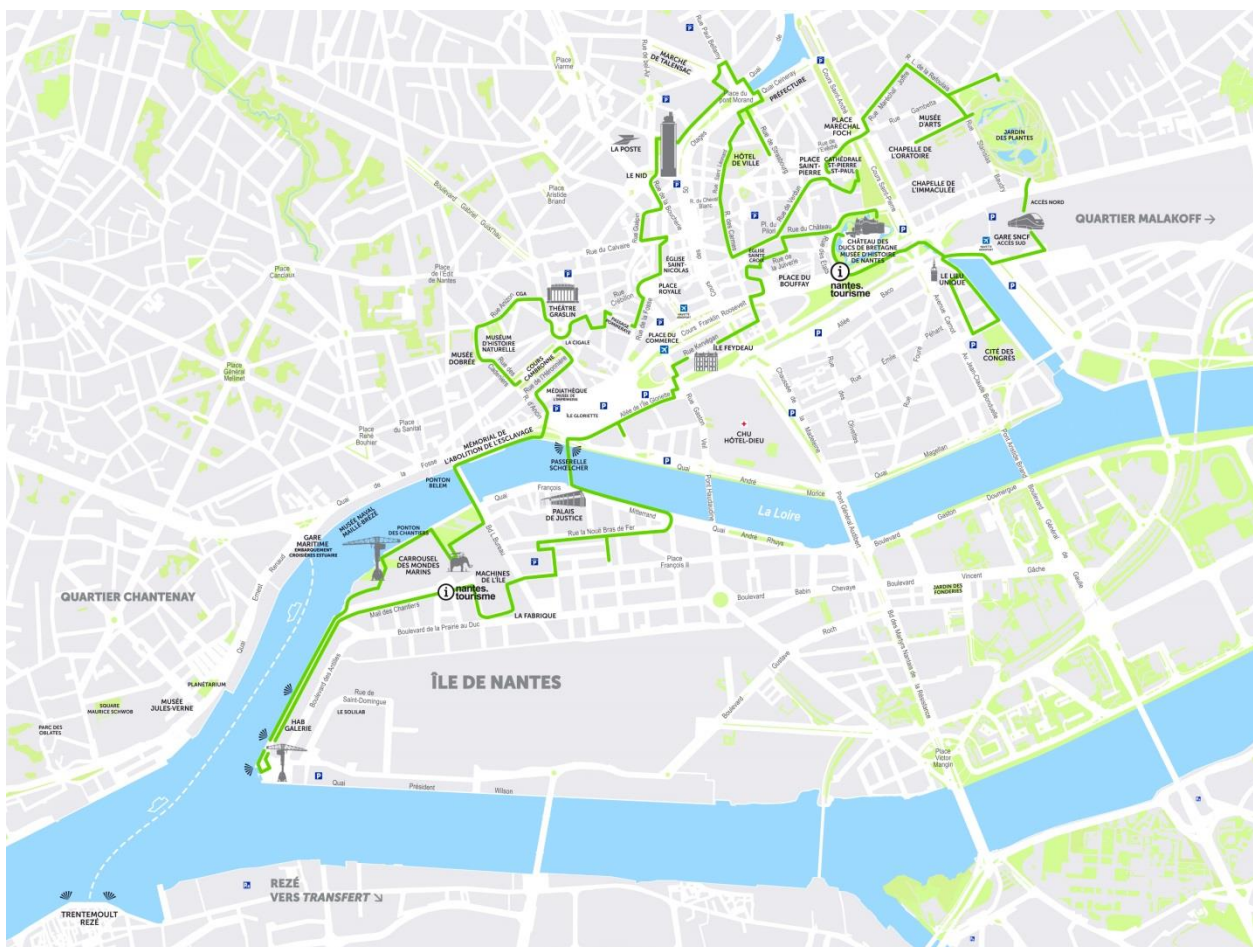
誰もが楽しく遊べる町

これまで開催された7回のVAN（2012～18年）ではナントの遊び心あふれるシュールな個性（ナントはシュールレアリスムと関わりが深い町です）とクオリティをとことん追求するこだわりの精神が存分に発揮されました。そのVANが大切にしていくのが多様性。その個性豊かな展示作品はすべて、頭であれこれ考えずにストレートに心で味わうことができますし、それとは逆に、各スポットに常駐するメディエーターの解説を聞きながらじっくり鑑賞することも可能です。子どもや若者、アート愛好家やアート初心者——誰もがそれぞれのペースでコースをめぐり、そぞろ歩きが楽しめます。笑い、驚き、ときにはいら立ち。緑色のラインをたどればさまざまな反応が生まれますが、無関心だけはありえません。

都市の外観を変えるイベント

期間限定の展示が常設展示へと移行することもままあります。というのも、アート作品やインスタレーションがあまりにも設置された場所にじっくり馴染んでいたり、人々を魅了し大きな反響を呼んだりして、常設の都市アートとして採用されているからです。過去7回のVANを通じて、コース上には23の作品が常設展示されるようになりました（「巢 Le Nid」、「バスケットゴールの木 l'Arbre à basket」など）。つまり、VANが都市の外観を変えているのです！ナントの詩心あふれる都市アートは世界各地で芸術の新しい息吹を生み出しており、都市計画担当者、民間企業、レストラン経営者などがこれまでとは違う未来の町づくりのヒントにしようとVANの経験から学んでいます。

VAN 見学マップ



BLOCK Architectes, BX PALLAS, le Voyage à Nantes 2018 © Philippe Piron / LVAN



La Colline, Appelle-moi papa, la Cantine du Voyage, le Voyage à Nantes 2018 © Philippe Piron / LVAN



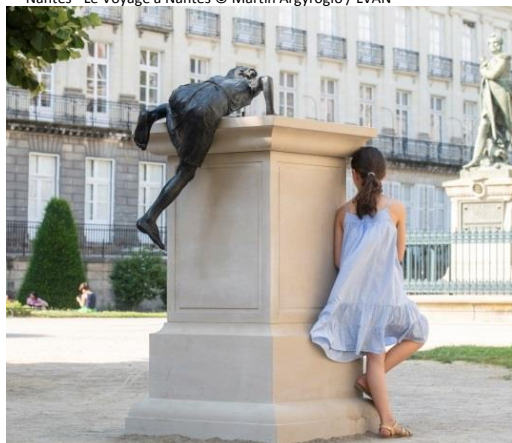
TACT Architectes, Paysage glissé, Château des ducs de Bretagne, Nantes - Le Voyage à Nantes © Martin Argyroglo / LVAN



Viva Las Vegas! De l'art des enseignes - Par Quentin Faucompré, Olivier Texier et Pascal Lebrain © Martin Argyroglo / LVAN



Stéphanie Vigny, De l'art des enseignes / Mirer (boutique Milk), dans le cadre du Voyage à Nantes 2018 © Philippe Piron / LVAN



Philippe Ramette, Éloge de la transgression, Cours Cambronne, Nantes - Voyage à Nantes 2018. Courtesy de l'artiste et Galerie Xippas © Martin Argyroglo / LVAN - ADAGP, Paris 2018

エスチュエール

ESTUAIRE

ロワール河口で異彩を放つ現代アート

注目を集めるアーティストックコース

エスチュエール ESTUAIRE（「河口」の意）はナントからサン・ナゼールまでロワール川沿いに延びる 60 km のコースで、発案者はアート・ディレクターのジャン・ブレーズ。コース上には国際的に活躍する著名アーティストが手がけた大型作品、彫刻、驚きの建築物が点在しています。

一年を通じて鑑賞できるコース上の常設コレクションは 3 回のエスチュエール・ビエンナーレ（2007、2009、2012 年）の展覧作品からおもに構成されていますが、その一方で年々内容を充実させており、2019 年には 3 作品が新たに登場する予定です——川俣正の「巣 The Nest」（ナント）、ダニエル・デュワー＆グレゴリー・ジケルの「カニ、足、プルオーバー、消化器官、エンジン Le Crabe, le Pied, le Pull, le Système digestif, le Moteur」（サン・ナゼール）、ヴァンサン・モジエのシリーズ作品「腕木式信号機 Sémaphores」（ナント～サン・ナゼール間）。

現場で制作されたこれらのインスタレーションには徒歩や自転車、あるいは車でアクセスします。作品は沼沢など多様な自然環境、漁場、工業地帯が混在するこれまであまり知られてこなかったロワール河口部を紹介するものです。

4 月～10 月はナントとサン・ナゼールを結ぶ河口クルージングが開催されており、ガイドの解説がついた 2 時間半のツアーを楽しむことができます。無料で自由に鑑賞できるコース上の 33 作品（注*）は、風変わりな場所（コンクリート工場に設けられたローマン・シグネールの「振り子 Le Pendule」など）や河口部の美しいサイト（ラヴォー・シュル・ロワールの草原および葦の群生地に設けられた川俣正の「観測所 L'Observatoire」など）を紹介する役割を担っています。夕闇が落ちたあとその魅力をより鮮明にする作品もあり、それらは町に詩情あふれる光を注いでいます（ダニエル・デュラン＆パトリック・ブジャンの「リング Les Anneaux」、フランソワ・モレルの「時折 De Temps en temps」など）。そうした作品を鑑賞するためにガイド付きの夜

の徒歩ツアー「エスチュエール・バイ・ナイト」も開催されています（ナント観光局の公式サイト Nantes.Tourisme に掲載されたガイド付きツアーのスケジュールを参照）。2014 年、美術誌『ボー・ザール・マガジン』がエスチュエールを「アートを変えた 30 年、30 作、30 人のアーティスト」に選出しました。このように大規模プロジェクト「エスチュエール」は、最初の作品が展示されてから 10 年で模範となる成功例として広く世に認められるようになったのです。コース上にアート作品をちりばめて「分散型モニュメント」を形成するこのプロジェクトでは、妥協を許さない真摯な芸術への取り組みとサイトを守り尊ぶ姿勢が巧みに両立しています。エスチュエールのコースは新たな魅力を受けられたロワール河口をたどる「導きの糸」であるのと同時に、持続可能性に配慮した開発整備をこの地にもたらしました。

注* 34 番目の作品、クロード・ルベックの「夏の死 Mort en été」はコースから少し外れたフォントヴロー修道院にあります（車で 2 時間 30 分）。



33の常設作品

ナント

1. リング LES ANNEAUX
ダニエル・デュラン＆パトリック・ブジャン
ナント島、アンティエーユ河岸
2. 時折 DE TEMPS EN TEMPS
フランソワ・モレル
ナント島、アルモニー・アトランティックビル
3. エアー AIR
ロルフ・ユリウス
ナント島、マニエビル
4. 横断歩道 THE ZEBRA CROSSING
アンジェラ・ブロック
ナント島、マニエビル
5. スタシオン・ブルヴェ STATION PROUVÉ
建築家ジャン・ブルヴェ
ナント島、シャンティエ公園
6. 不在 L'ABSENCE
アトリエ・ヴァン・リースホウト
ナント、建築学院の広場
7. 睡蓮 NYMPHÉA
アンジュ・レッチャ
ナント、サン・フェリックス運河
8. 粗野な料金所 PÉAGE SAUVAGE
オプセルヴァトリウム
ナント、マラコフ（ブティット・アマソニー）

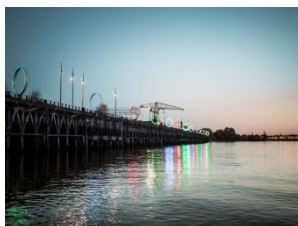
9. 月の木 LUNAR TREE

- ムザク＆モリソー
ナント、サント・アンヌの丘
10. 巻き尺 MÈTRE À RUBAN
リリアン・ブルジェア
ナント島、エディカビル
11. 存在するさまざまな力の解明
RÉSOLUTION DES FORCES EN PRÉSENCE
ヴァンサン・モジエ
ナント島、シャンティエ公園
12. 巣 THE NEST
川俣正
ナント、サント・アンヌの丘
13. 赤い蛇 SERPENTINE ROUGE
ジミー・ダーラム
アンドル
14. ロワール川の中にある家 LA MAISON DANS LA LOIRE
ジャン・リュック・クルーク
クエロン
15. 煙突の家 VILLA CHEMINÉE
西野達
コルドメ
16. 観測所 L'OBSERVATOIRE
川俣正
ラヴォー・シュル・ロワール

17. 三角形の連なり SUITE DE TRIANGLES

- フェリチェ・ヴァリーニ
サン・ナゼール、展望テラス
18. 第 3 風景の庭 LE JARDIN DU TIERS PAYSAGE
シル・クレマン
サン・ナゼール、潜水艦基地の屋根
19. カニ、アシ、プルオーバー、消化器官、エンジン LE CRABE, LE PIED, LE PULL, LE SYSTÈME DIGESTIF, LE MOTEUR
デュワー＆ジケル
サン・ナゼール
20. 腕木式信号機 SÉMAPHORES
ヴァンサン・モジエ
ナント～サン・ナゼール間
- 南岸
21. 海へ蛇 D'OCÉAN
ホアン・ヨン・ビン
サン・ブルヴァン・レ・パン
22. 星の輝く庭 LE JARDIN ÉTOILÉ
丸山欣也
パンブフ
23. 想像不能 MISCONCEIVABLE
アーウィン・アーム
ル・ベルラン、マルティニエール運河
24. 6 人のアーティストの 6 つの部屋 6 CHAMBRES D'ARTISTES AU CHÂTEAU DU PÉ
アーティストの 6 カップル
サン・ジャン・ド・ボワソー
25. 私は何かを逃してしまったのか？ DID I MISS SOMETHING?
イェッペ・ハイン
サン・ジャン・ド・ボワソー、ベ城
26. 開拓者たち THE SETTLERS
サラ・サイズ
ブダネ、ホール・ラヴィーニ
27. 振り子 LE PENDULE
ローマン・シグネール
ルゼ、トラントム

エスチュエール、ロワール河口で異彩を放つ現代アート



1. LES ANNEAUX © Franck Toms /LVAN



2. De temps en temps © Bernard Renoux/LVAN



3. Air © Bernard Renoux/LVAN



5. Station © Bernard Renoux / LVAN



6. L'Absence © Gino Maccarinelli/LVAN



7. Nymphéa © Jean-Dominique Billaud – Nautilus/LVAN



8 Péage Sauvage© Bernard Renoux/LVAN.



9. Lunar tree © Bernard Renoux/LVAN.



10. MÈTRE À RUBAN © Bernard Renoux/LVAN



11. RÉOLUTION DES FORCES EN PRÉSENCE © LVAN



13 Serpentine Rouge © Gino Maccarinelli/LVAN.



14. La Maison dans la Loire © Philippe Piron / LVAN



15. Villa Cheminée, © Bernard Renoux/LVAN.



16. L'Observatoire © Bernard Renoux/LVAN.



17. Suite de triangles © André Morin_LVAN.



18. Le Jardin du Tiers-Paysage © Bernard Renoux/LVAN.



21. Serpent d'océan, © Martin Argyroglo/LVAN.



22. Le Jardin étoilé © Philippe Piron /LVAN.



23. Canal de la Martinière © Philippe Piron /LVAN.



24. Chambre d'artistes, Château du Pé, © Bernard Renoux/LVAN



25. Did I miss something ? © Martin Argyroglo/LVAN



26. The Settlers, © Philippe Piron /LVAN



27. Le Pendule© Gino Maccarinelli / LVAN .



LA NUIT DU VAN 2017 © CLACK - FERSEN SHERKANN/LVAN

ナント観光局

広報担当 カティア・フォレ

CONTACT PRESSE – NANTES.TOURISME
KATIA FORET – KATIA.FORET@LVAN.FR – + 33 (0)2 40 20 60 02

国際プロモーション担当 グザヴィエ・テレ

PROMOTION INTERNATIONALE
XAVIER THERET – XAVIER.THERET@LVAN.FR – +33 (0)2 51 17 48 60

WWW.LEVOYAGENANTES.FR / WWW.NANTES-TOURISME.COM